

## 1. 今年度 (1 学期) のサイエンス入門の主な活動

4 月 17 日(火)	概要説明とマイクロメーター	一年間の取り組み、導入実験「マイクロメーターによる長さの測定と細胞の観察」
4 月 24 日(火)	実験実習 I : 1 回目 ①	3 班に分かれてそれぞれ物理・化学・生物分野の実験実習を受ける 物理:「単位と有効数字」「人間の歩行の特徴」 化学:「ガラス細工 Elementary Glassworking)」 生物:「タマネギの細胞の測定とグラフ化とその考察」
5 月 8 日(火)	実験実習 I : 1 回目 ②	
5 月 15 日(火)	実験実習 I : 1 回目 ③	
5 月 29 日(火)	実験実習 I : 2 回目 ①	3 班に分かれてそれぞれ物理・化学・生物分野の実験実習を受ける 物理:「地球の周を測定する」 化学:「融点測定 melting point determination」 生物:「魚類の解剖と観察」
6 月 5 日(火)	実験実習 I : 2 回目 ②	
6 月 12 日(火)	実験実習 I : 2 回目 ③	
6 月 19 日(火)	6/26 へ振替	
6 月 26 日(火)	実験実習 I まとめ	1 学期の取り組みの振り返り、Raffles International Science camp 研修報告
7 月 3 日(火)	施設見学(1)	理化学研究所(CDB・CMIS)の見学と講義, 神戸医療産業都市構想について

2. 1 学期のサイエンス入門で特に自分の力が伸びたと思う取組みとどういう力が伸びたかや印象に残った活動とどうい  
うところが良かったかなどを具体的に書いてください。

## 3. 1 学期のサイエンス入門の全体の感想 (要望や改善点なども含めて) を書いてください。

## サイエンス入門 評価アンケート

以下の質問に関して、自己評価（4～0）を記入してください。

なお、質問に「サイエンス入門の授業を受けたことによって」という語句を補足して考えてください。

4…よく当てはまる	3…やや当てはまる	2…あまり当てはまらない	1…ほとんど当てはまらない
0…該当する状況を経験していない			

番号	質問	評価
1	いろいろな分野の知識が充実してきた。	
2	サイエンス入門で得た知識が、別の機会（場面）での考察で役に立ったり、別の機会における疑問につながることもある。	
3	説明を聞いたり、資料などを読んだりするうちに、「出来事」の部分と「意見」の部分を区別して考えることが多くなった。	
4	サイエンス入門で、自分の興味や関心が高まった。	
5	疑問に思ったことを解消するために、事後に文献やインターネット等の検索を行うことが多くなった。	
6	自然科学分野において、疑問を調べたり興味が生じたことに対して取り組む時間が多くなった。	
7	何かに取り組むときに、まず、「しなければならないこと」の順番を考えてから取りかかるようになった。	
8	何かに取り組むときに、計画をメモ書きなどすることが多くなった。	
9	特徴がつかみにくい場合や、複雑な場合、事象や文章などの区切りやまとまりを探して細分化することが多くなった。	
10	特徴や重点を明確にするために、図などの工夫をしたり、タイトル（箇条書きなど）をつけることが多くなった。	
11	正しく操作できる実験器具が増えた。	
12	エクセルやワード、パワーポイントなどのソフトウェアを用いて、数値データから適切なグラフの作成や計算ができるようになった。	
13	実験などの提出物に、「動機、目的、方法、結果、考察、今後の課題」といった内容を入れて仕上げるができるようになった。	
14	実験などの提出物に、得られたデータや参考文献などを適切な書式で書き加え、信頼性を確保する（できる）ようになった。	
15	興味のある分野について、本や論文、専門書などを探すようになった。	
16	説明や発表をする場合には、メモなどを見ない、ジェスチャーを交える、語りかける、聞き手の印象に残るための工夫をする等を行うようになった。	
17	疑問が生じたら、相手に質問をすることができるようになった。	
18	発表会や説明する場では、質問することが発表者（説明者）のためにもなると思うようになった。	
19	発表や説明をする場合には、質問されそうな事項を想定して回答を考えておいたり、簡単な資料などを示せるように準備するようになった。	
20	発表や説明をするような場で、質問に対して回答するときには、聞く側と自分の知識の差を考慮して、聞く側にわかりやすい表現で伝えるようになった。	
21	発表や説明に対して自分の考えを述べるときや、質問に対して回答をするときに、客観的な根拠を示すようになった。	
22	発表や説明をするような場で、自分が質問したことに対する相手の回答が食い違っていたり不十分であった場合に、別の表現で再度質問をするなりして議論の継続に努力することができるようになった。	